

事業の背景・目的

フサヒゲルリカミキリ *Agapanthia japonica* は、かつては日本の複数地域に生息していたが、現在では岡山県真庭市蒜山高原にのみ生息し、環境省レッドリストでは絶滅危惧IA類で、種の保存法による国内希少野生動植物に指定されている。個体数の減少傾向が著しく、早急な保全対策が必要であるため、本事業では1年目に、絶滅を回避するための個体群の補強を実施した。2年目には個体群の補強の必要性がなくなったと判断されたため、生息環境の改善および生態調査を実施した。

事業の内容

事業① 生息環境の改善事業

事業①では、草原の遷移による生息環境悪化を改善する。

- ・大規模な環境改善が必要であり、3ha以上で実施する。
- ・成虫が活動する6月までに草刈りを実施する。
- ・成虫の活動空間や、食草であるユウスゲを刈り残すなど、草刈りの方法に配慮する。

事業② 成虫の生態調査事業

事業②では、野外での保全に重要な生態を解明するために必要な生態情報を調査する。

- ・野外での個体数を解明するため、標識再捕獲調査を行う。
- ・野外で成虫が、食草の群落間の移動の有無を調査する。
- ・成虫の摂食、交尾、移動などの行動を詳細に解明する。

得られた成果

2016年に国内希少野生動植物種に指定されたフサヒゲルリカミキリは、現在確実に生息している地域が岡山県真庭市蒜山高原のみで、近年は個体数の減少が著しく、絶滅の可能性があった。本事業では、事業①において、6月中旬に3haの草刈りを実施したことで、食草のユウスゲの量が、花茎数で計数して前年の2倍の約6000本になるなど、生息環境の大幅な改善効果がみられた。さらに、8月中旬に0.5haの草刈りを追加実施したことで、環境が著しく悪化していた部分でも効果的な環境改善が実施できた。事業②における生態の調査では、成虫の総個体数が約60個体であることが初めて明らかになるとともに、成虫が食草の群落を移動していることや、出現期や交尾や産卵など保全に必要な基本情報の蓄積により、成虫の生活史を推定することができ、保全対策を検討するうえで不足していた生態情報を大幅に充実させることができた。